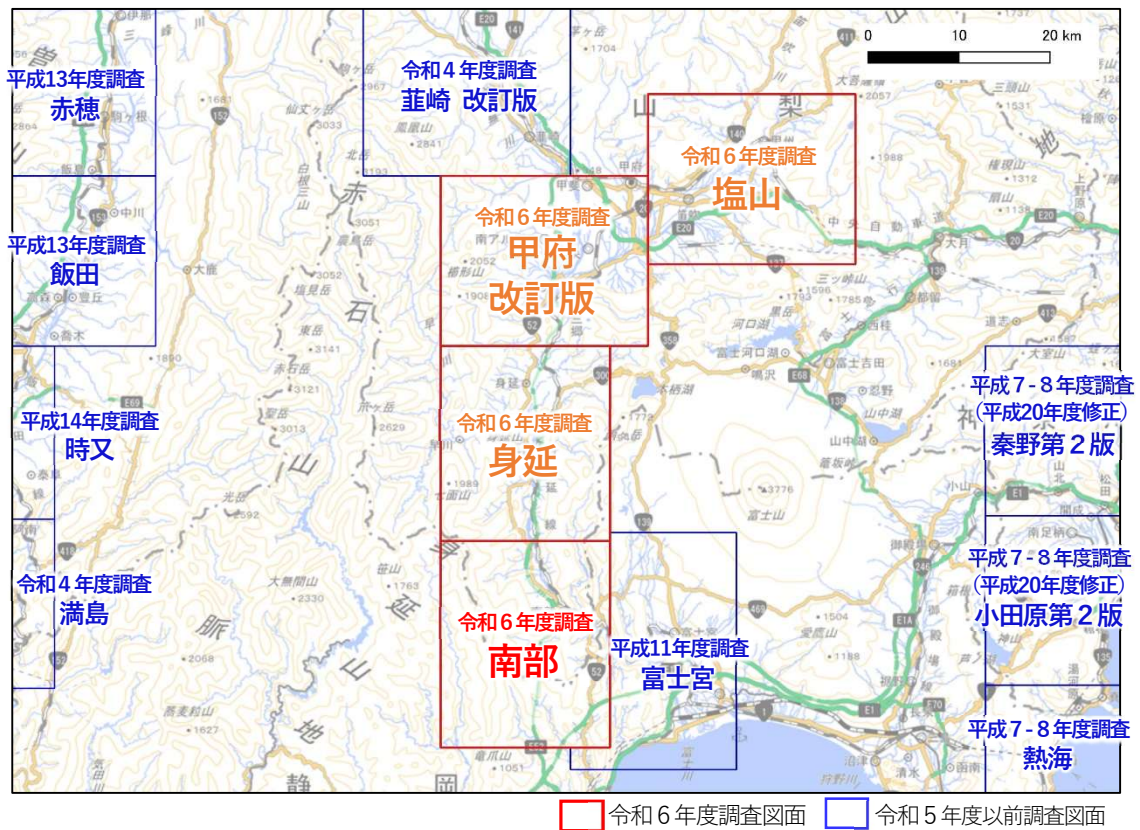


目 次

身延断層とその周辺「南部」解説書

1. 身延断層	2
2. 西乗川断層	5
3. 田代峠断層	7
引用文献	10
調査に使用した諸資料及び検討委員会等	11
付図（断層索引図）	14



1:25,000活断層図「南部」作成位置図

1:25,000 活断層図 身延断層とその周辺「南部」解説書

身延断層は、山梨県南巨摩郡身延町、南部町、静岡県富士宮市付近にかけて北北西－南南東方向に延びる断層である。北部は断層の西側が隆起する逆断層、南部は断層の西側が隆起する逆断層成分を伴う左横ずれ断層であり、地表で確認できる長さは約 20 km とされている（地震調査研究推進本部地震調査委員会 2015）。1:25,000 活断層図「南部」（以下「本図」という）には南部町から富士宮市及び静岡市へと至る身延断層の南部が含まれる。なお、本図および北側隣接図面 1:25,000 活断層図「身延」（田力ほか 2025）により、身延断層の地上で確認できる長さは約 29 km 又はそれ以上となっている。

本図には、この身延断層のほか、これと並走する西乗川断層及び田代峠断層を記載している。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する。（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）

1. 身延断層

- ・走向 : 北北西－南南東
- ・長さ : 約 16 km
- ・断層種別 : 活断層（左横ずれ及び縦ずれを含み、一部に活撓曲を伴う）、推定活断層

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

身延断層は、北側に隣接する 1:25,000 活断層図「身延」（田力ほか 2025）図面内の山梨県身延町粟倉付近から、本図の静岡県富士宮市橋上南東方まで、北北西－南南東方向に延びる活断層である。

本図には図面の北辺（南部町峰の窪付近）から東辺（富士宮市橋上南東方）まで、北北西－南南東方向に延びる長さ約 16 km の区間が記載されている。富士川の左右両岸に推定活断層を含む多数の断層トレースが複雑に分布するとともに、全体としては南東に向かって複数の断層トレースに分岐するような平面形態をとる。左横ずれ変位とともに西側隆起、南西側隆起及び北東側隆起の縦ずれ変位（一部は活撓曲）が認められる。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2015）や水本ほか（2016）の示した断層トレースに概ね一致するが、本図では、一部について新たな活断層区間を認定した。

(2) 判読根拠

本断層の主な地点ごとの判断根拠は次の通りである。

- 1a: 富士川右岸, 南部町^{なかの}中野付近から南部付近にかけて分布する中位段丘面上及び下位段丘面上に侵食崖とは考えられない東向き及び西向きの低崖が複数並走して認められ, 一部は撓曲状の断面形態を示すことから, これらのトレースを活断層と判断した。
- 1b: 富士川右岸, 南部町^{おおわ}大和付近から^{はらと}原戸付近にかけて延びる地形境界に沿って, 多数の小河谷に系統的な左屈曲が認められることから, 本トレースを活断層と判断した。
- 1c: 富士川左岸, 南部町^{いで}井出の下位段丘面上には侵食崖とは考えられない北東向き(逆向き)の低崖が認められる(水本ほか 2016) ことから, 本トレースを活断層と判断した。
- 1d: 富士川右岸, 南部町^{こしど}越渡付近から^{じょうだい}上代付近にかけて分布する上位～下位段丘面は北西－南東方向の直線谷を境にその分布がすべて途切れるとともに, それら段丘面の南西縁はいずれも撓曲状の断面形態を示すことから, 本トレースを活断層と判断した。また, このトレースの約 400 m 北東側の^{さいぎょう}西行付近の下位段丘面にも北東向きの撓曲状低崖が認められることから, この場所にも上記のトレースに並走する短い活断層が存在すると判断した。
- 1e: 富士川左岸側の山地内, 南部町^{やぎさわ}八木沢付近には, 北西－南東方向の直線的な埋積谷の南縁に沿って複数の小河谷に明瞭な左屈曲が認められるとともに, 分離丘状の地形も確認される。この埋積谷の南東端は風隙となっており, 今回の調査でその直下の谷底において, 南西側の破碎した基盤岩(中新統身延層と考えられる泥岩)と北東側の未固結粘土層の間及び粘土層内に明瞭な活断層の露頭が確認された(図 1: 図面に活断層露頭として記載)。以上から, 本トレースを活断層と判断した。これまで, 本トレース沿いには地質断層(八木沢断層; 杉山・松田 2014)が知られていたのみであり, 今回の調査で新たに認定した活断層区間である。
- 1f: 富士川支流, ^{ふくしがわ}富士川沿いの南部町^{こくぼ}小久保付近から^{おおとうげ}大峠付近にかけて分布する直線的な地形境界沿いに小河谷の左屈曲や分離丘状の地形が認められるとともに, 大峠^{おおじろ}南方の大城の下位段丘面上には侵食崖とは考えられない東向きの低崖が確認される(渡辺ほか 2017)。大城の下位段丘面の南西方では基盤岩(中新統^{まんざわ}万沢層と考えられる泥岩)中に一部が粘土化した破碎帯も確認できたことから, 本トレースを活断層と判断した。なお, 本トレースの近傍には, 西側の^{はまいしたけ}鮮新統浜石岳層(礫岩)と東側の中新統^{ねぐま}万沢層(泥岩砂岩互層)の間を限る地質断層(根熊断層; 杉山・松

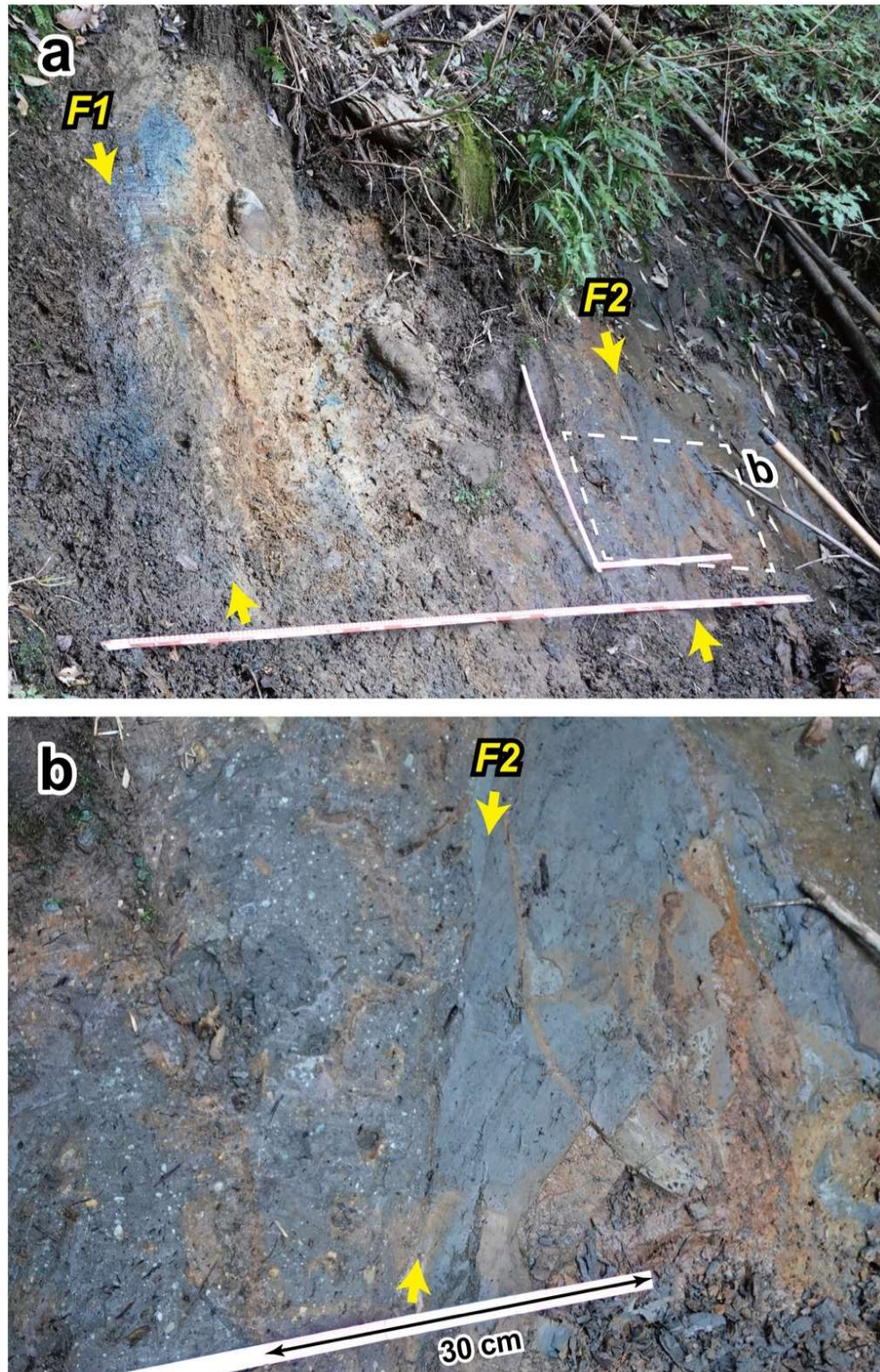


図1 八木沢南東で確認された活断層露頭。(a) 露頭の全景写真。写真左手が南西方向。破碎した基盤岩（左手:中新統身延層と考えられる泥岩）と礫を大量に含む未固結青灰色粘土層の境界を限る断層（F1），及び礫を大量に含む粘土層とほとんど含まない青灰色塊状粘土層の境界を限る断層（F2）の2条の断層が確認される。礫を大量に含む粘土層中には直立した大礫～巨礫サイズの亜円礫が複数含まれ、この層全体が剪断帯（幅約1.5 m）と判断される。断層の走向・傾斜はF1がN57° W, 82° S, F2がN73° W, 68° S。写真下部に横置きされたスケールの長さは2 m。(b) F2付近の拡大写真。未固結粘土層中に明瞭な剪断面（F2）が確認される。F2両側の粘土層中には小木片が多数含まれていた。

田 2014) が知られているが、一部を除いて、本トレースはこの地質断層のやや東側を並走する。

1g: 富士川支流、^{さかいかわ}境川上流の静岡市清水区^{ししはら}穴原付近には、南北方向の鞍部列に沿って複数の小河谷に左屈曲が認められるとともに、1箇所^{ししはら}の鞍部は風隙となっているが、新期の活動を示す確実な証拠は確認できないことから、本図では本トレースを推定活断層として記載した。

2. ^{にしのがわ}西乗川断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約 7 km
- ・断層種別 : 活断層（左横ずれを主体とし、縦ずれを伴う）、推定活断層を含む
（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

(1) 概要

北側に隣接する「身延」(田力ほか 2025) 図面内の山梨県南部町^{にしのがわ}西乗付近から、本図の静岡県富士宮市^{きたがやと}北ヶ谷戸付近まで、北西－南東方向に延びる左横ずれを主体とする活断層である。本図には図面の北辺（南部町^{しもの}下野の北方）から富士宮市北ヶ谷戸付近まで、北西－南東方向に延びる長さ約 7 km の区間が記載されている。一部に縦ずれ変位と推定活断層を含む。

本断層は今回の調査で新たに確認された活断層である。「身延」(田力ほか 2025) 図面内では尾崎・杉山 (2018) 及び杉山・松田 (2014) に記載されている地質断層の西乗川断層の南端部に位置し、本図ではその延長上に活断層トレースが延びることから、西乗川断層を活断層名として採用した。

(2) 判読根拠

本断層の主な地点ごとの判断根拠は次の通りである。

2a: ^{てんしこ}天子湖上流、^{きのがわ}佐野川右岸には北北西－南南東方向に小鞍部列が続き、このトレースに沿って複数の小河谷や小尾根に明瞭な左屈曲が認められる。また、標高 464 m の標高点南側の小河谷（佐野南沢）の左岸側では、このトレース上の基盤岩中に顕著な破碎帯が確認され、不明瞭ながらその上を覆う崖錐堆積物が変位しているようにも見えることから（図 2）、地形と地質の情報を総合して、本トレースを活断層と判断した。

2b: ^{かきもと}柿元ダム左岸側の山地斜面から石神峠にかけて、周囲の尾根・谷の方向とは斜交する北西－南東方向の直線谷や小鞍部、小河谷の左屈曲が認められる。加えて、石

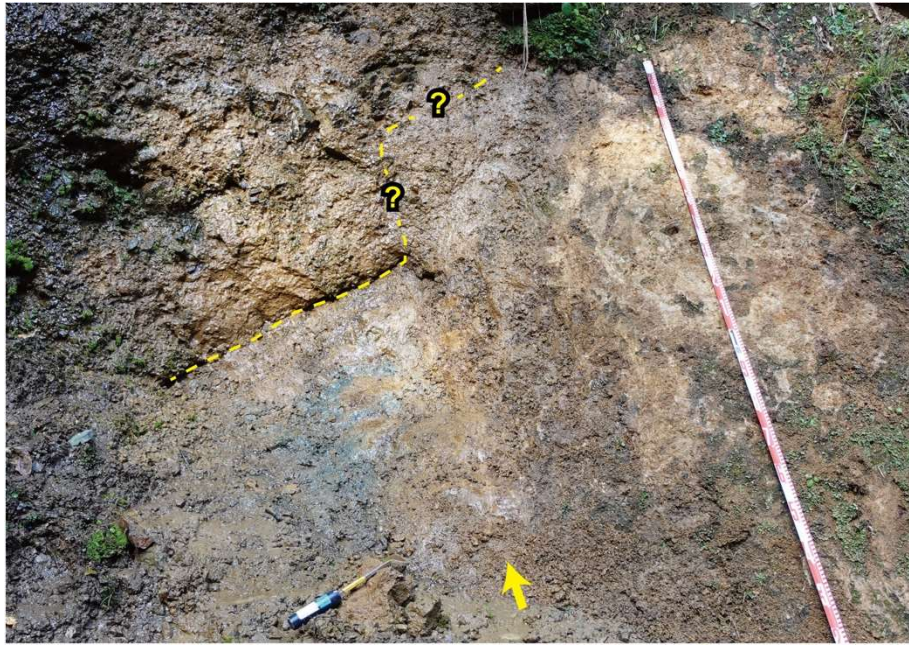


図2 佐野南沢左岸で確認された西乗川断層の破碎帯露頭。写真左手が南西方向。黄色矢印の位置に青灰色を呈する左側の破碎帯（中新統しもべ層泥岩起源？）と白色を呈する右側の破碎帯（しもべ層に貫入する閃緑岩起源？）の間を限る断層（ $N16^{\circ}W, 78^{\circ}W$ ）が認められ、その上位を未固結の崖錐堆積物（中礫サイズで亜角礫の泥岩礫を主体とする不淘汰な礫層）が覆う（黄色破線から上）。破碎帯と崖錐堆積物の境界が一部不明瞭なため判然としないが、上記断層の延長上で崖錐堆積物の基底が上下に変位しているようにも見える。右手のスケールの長さ（写真に写っている部分の長さ）は約1.8 m。

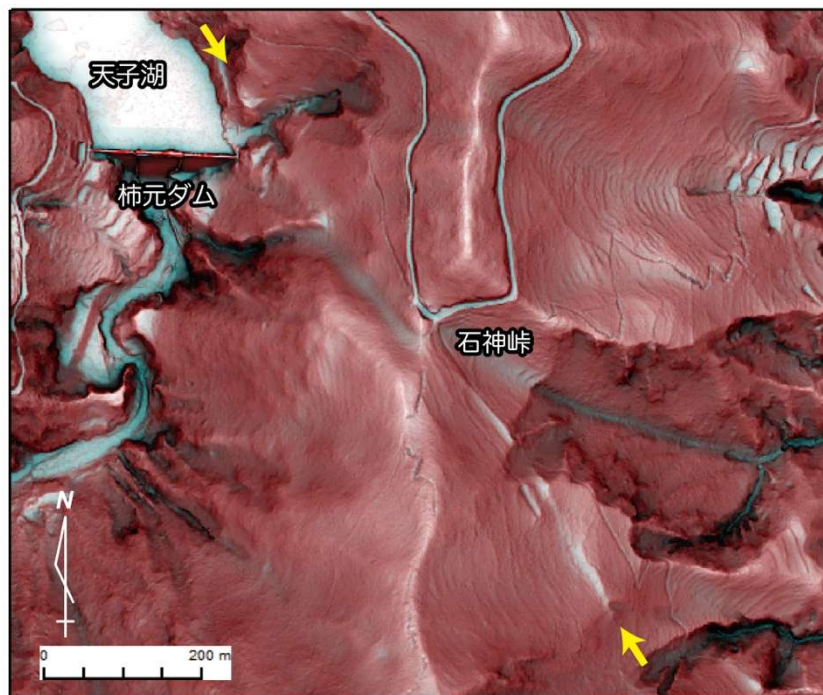


図3 西乗川断層沿い、石神峠付近の活断層地形。背景図は航空レーザ測量データから作成されたMPI 赤色立体地図（Kaneda & Chiba, 2019）。黄色矢印は西乗川断層のトレースを示す。とくに石神峠の南東側では、航空レーザ測量データを用いた今回の地形判読により、山地斜面を変位させる逆向き低断層崖と考えられる地形が確認された。

神峠の南東側では、航空レーザ測量データを用いた今回の地形判読により、上記トレースの延長上の山地斜面を変位させる逆向き低断層崖と考えられる地形が確認されたことから（図3）、本トレースを活断層と判断した。

3. 田代峠断層

- ・走向 : 北北西－南南東、西北西－東南東
- ・長さ : 約 11 km
- ・断層種別 : 活断層（左横ずれを主体とし、縦ずれを伴う）、推定活断層

（1）概要

田代峠断層は、山梨県南部町と静岡市清水区の境界付近に位置する田代峠付近から、静岡市清水区布沢付近まで、北部から中部においては北北西－南南東方向、南部においては西北西－東南東方向に延びる長さ約 11 km の活断層である。左横ずれ変位を主体とし、一部に縦ずれ変位と推定活断層を含む。

活断層研究会編（1991）には、この断層の北部～中部のトレースに概ね沿う形で活断層の疑いのあるリニアメント（確実度Ⅲ、断層名なし）が記載されていたものの、その後出版された中田・今泉（2002）や今泉ほか編（2018）には本断層は記載されていなかった。本断層の大部分は杉山・下川（1990）や杉山・松田（2014）に記載されている地質断層（田代峠衝上断層ないし田代峠断層）及びその分岐断層に一致するため、本図では田代峠断層を活断層名として採用した。本断層の南部（3b）は今回の調査で新たに確認された活断層区間である。

（2）判読根拠

本断層の主な地点ごとの判断根拠は次の通りである。

3a：興津川上流部は北北西－南南東方向の顕著な直線谷をなしており、この直線谷の左岸側に沿って多数の小河谷に左屈曲が認められる。とくに、静岡市清水区出羽南方では、明瞭な小河谷の左屈曲とともに中位段丘面上に侵食崖とは考えられない逆向きの低崖が認められ、そのすぐ南側では鮮新統浜石岳層の礫岩中に破碎帯も確認された。また、本断層北端に近い田代峠の北側においては、土石流堆積物ないし崩壊堆積物の堆積面と考えられる東傾斜の地形面上に不明瞭ながら東向きの低崖が確認され、断層変位によるものである可能性がある。以上から、本トレースを活断層と判断した。

3b：静岡市清水区下黒川南方の山地内には、東西～西北西－東南東方向のトレースに沿って小鞍部及び明瞭に左屈曲した小河谷が並び、1箇所の鞍部は風隙となってい

る。また、航空レーザ測量データを用いた今回の地形判読により、山地斜面上の一部に新鮮で直線的な逆向き低崖が確認された。さらに、今回の調査によって、このトレース上の2箇所で、北側の破碎した基盤岩（中新統静岡層と考えられる泥岩）と南側の未固結堆積物の間を限る活断層の露頭も確認された（図4：図面に活断層露頭として記載）。以上から、本トレースを活断層と判断した。

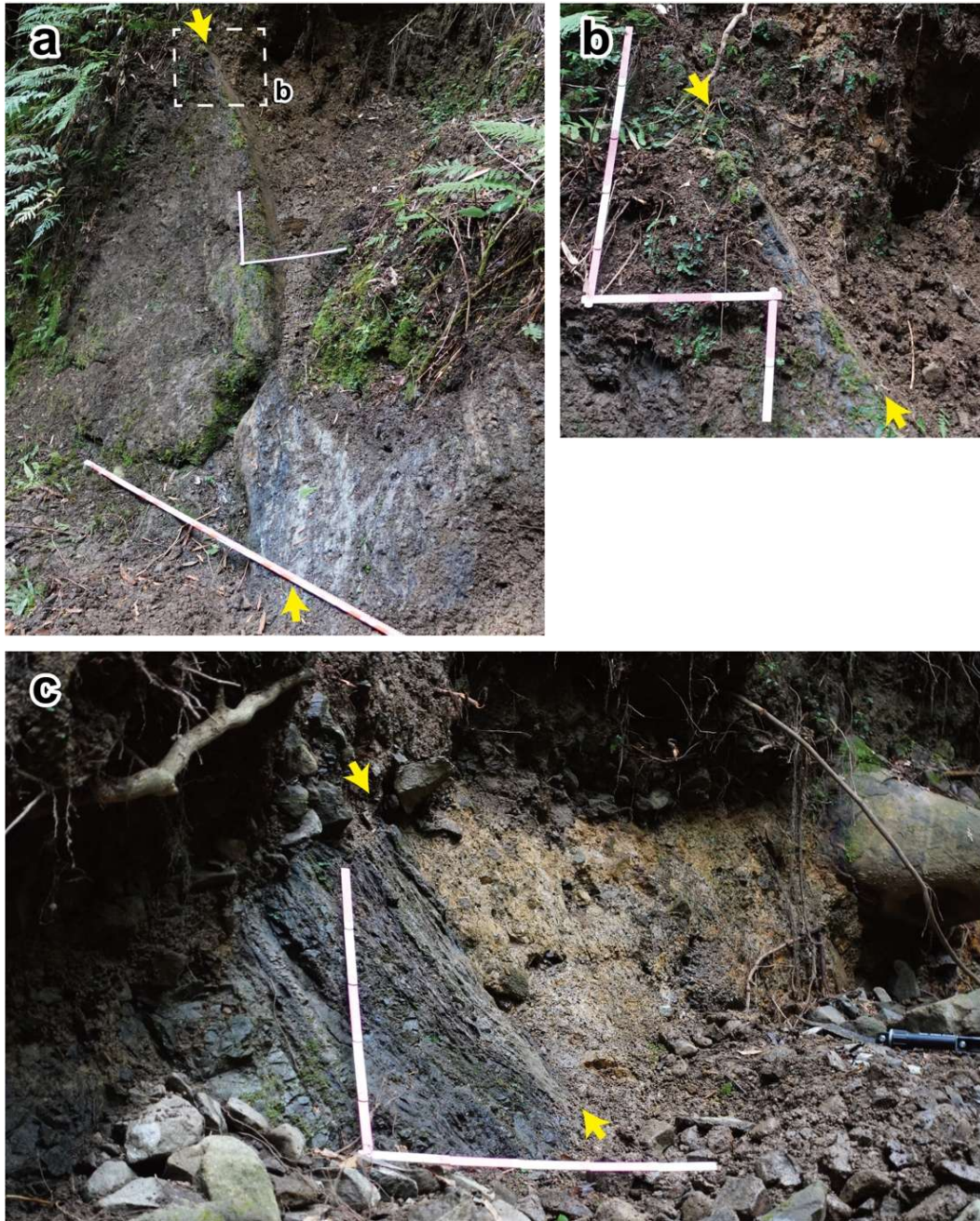


図4 下黒川南方の2箇所を確認された田代峠断層南部区間の活断層露頭。(a) 西側の活断層露頭の全景写真。写真左手が北東方向。黄色矢印の位置に破碎した基盤岩(左手:中新統静岡層と考えられる泥岩)と未固結の崖錐堆積物(右手:中礫サイズの亜円～亜角礫を主体とする不淘汰な礫層)の間を限る明瞭な断層が確認される。2箇所計測された断層の走向・傾斜はN87° W, 52° S及びN88° W, 56° S。写真中央のスケールは50 cm×50 cm。(b) (a)の露頭上部の拡大写真。右手の崖錐堆積物の中には破碎帯起源と考えられる灰色粘土がブロック状に取り込まれており、基盤岩と崖錐堆積物が単なるアバット関係(急傾斜する崖の側方に新しい地層が堆積する不整合の一形式)ではないことを強く示唆する。写真左手のスケールは50 cm×30 cm×20 cm。(c) 東側の活断層露頭の全景写真。写真左手が北方向。黄色矢印の位置に破碎した基盤岩(左手:中新統静岡層と考えられる泥岩)と未固結の土石流堆積物(右手:中礫～巨礫サイズの亜円～亜角礫を主体とする基質支持の礫層)の間を限る明瞭な断層が確認され、その上位を崖錐堆積物(亜角礫～角礫を主体とする礫支持の礫層)が覆う。断層の走向・傾斜はN88° W, 55° S。写真中央のスケールは50 cm×50 cm。

謝辞

現地調査においては、中央大学大学院理工学研究科の藤波哲平氏のご助力をいただいた。

(中央大学教授 金田 平太郎)

引用文献

- 今泉俊文・宮内崇裕・堤 浩之・中田 高編 2018. 『活断層詳細デジタルマップ [新編]』東京大学出版会.
- 尾崎正紀・杉山雄一 2018. 身延地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 活断層研究会編 1991. 『新編 日本の活断層—分布図と資料—』東京大学出版会.
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2015. 身延断層の長期評価.
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/15apr_chi_kanto/ka_16.pdf. (2025 年 6 月 23 日閲覧)
- 杉山雄一・下川浩一 1990. 清水地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所.
- 杉山雄一・松田時彦 2014. 南部地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 田力正好・中田 高・松多信尚・渡辺満久 2025. 『1:25,000 活断層図「身延」』国土地理院.
- 中田 高・今泉俊文編 2002. 『活断層詳細デジタルマップ』東京大学出版会.
- 水本匡起・後藤秀昭・中田 高・松田時彦・田力正好・松浦律子 2016. 富士川谷の身延断層に沿った新期断層変位地形の発見とその意義. 活断層研究 44:9-21.
- 渡辺満久・中田 高・水本匡起 2017. 富士川谷に見いだされた断層変位地形と断層露頭. 活断層研究 46:9-15.
- Kaneda, H, and T. Chiba 2019. Stereopaired morphometric protection index red relief image maps (Stereo MPI-RRIMs): effective visualization of high-resolution digital elevation models for interpreting and mapping small tectonic geomorphic features. *Bull. Seismol. Soc. Am.* 109(1):99-109. DOI: <https://doi.org/10.1785/0120180166>.

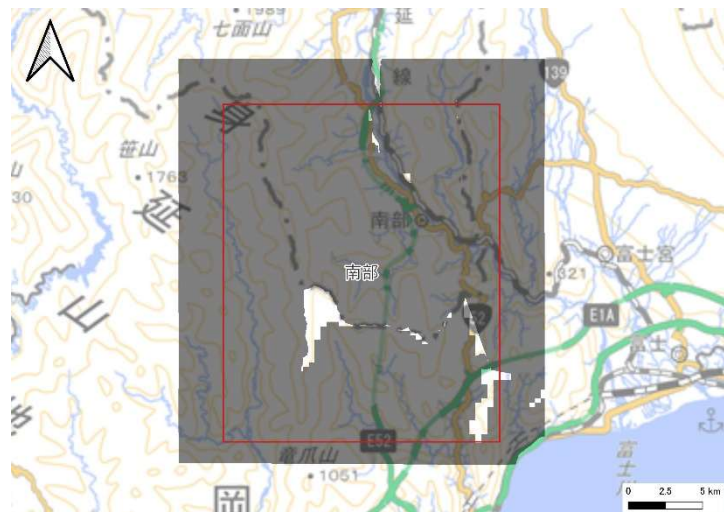
調査に使用した諸資料及び検討委員会等

1) 使用した空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	およそ 1/10,000	M198, M204-2, M464-2, R242-No1, R376
米軍（モノクロ）	およそ 1/40,000	M443, M476, M1171
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山-352, 山-354
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	MCB642X, MCB691X
国土地理院（カラー）	1/15,000	CCB7618, CCB7619, CCB7621

2) 使用した航空レーザ測量データ

測量計画機関	計測年度	業務名
関東地方整備局富士川砂防事務所	2009	H21 大規模崩壊地対策航空レーザ計測その3業務
関東地方整備局甲府河川国道事務所	2013	H24 富士川航空レーザ測量業務
中部地方整備局富士砂防事務所	2012	平成23年度富士山麓（富士山）航空測量業務
中部地方整備局富士砂防事務所	2012	平成24年度富士山南西野溪航空測量業務
中部地方整備局河川部	2020	令和2年度中部地方整備局管内航空レーザ測量業務
静岡県交通基盤部	2021	令和3年度安倍川圏域ほか基礎調査業務委託（静岡市中・西部航空レーザ測量）
静岡県交通基盤部	2021	令和3年度静岡県東部航空レーザ測量業務委託



航空レーザ測量データ使用範囲（グレー色塗りつぶし部：データ使用部，赤枠：図郭）

3) 地形分類に使用した資料

地形分類については、下記資料のほか、国土地理院の治水地形分類図、国土庁や各都道府県で実施した土地分類基本調査の地形分類図および表層地質図、防災科学技術研究所の「1:50,000 地すべり地形分布図」等を参考にして、空中写真および数値標高モデル（DEM）を用いて国土地理院が作成した。

- ・杉山雄一・下川浩一 1990. 清水地域の地質. 地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）. 地質調査所.
- ・杉山雄一・松田時彦 2014. 南部地域の地質. 地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）. 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- ・水本匡起・後藤秀昭・中田 高・松田時彦・田力正好・松浦律子 2016. 富士川谷の身延断層に沿った新期断層変位地形の発見とその意義. 活断層研究 44:9-21.

4) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第 1 回委員会	令和 6 年 6 月 12 日(水) オンライン会議
第 2 回委員会	令和 6 年 12 月 23 日(月) 国土地理院関東地方測量部
第 1 回活断層図作成部会	令和 6 年 9 月 6 日(金) 国土地理院関東地方測量部
第 2 回活断層図作成部会	令和 6 年 11 月 18 日(月) イオンコンパス東京八重洲会議室
第 3 回活断層図作成部会	令和 6 年 12 月 23 日(月) 国土地理院関東地方測量部

b. 身延断層とその周辺「南部」の調査担当者（令和 6 年度）

図 名	氏 名	所 属
南部	○ 金田 平太郎	中央大学教授
	田力 正好	地震予知総合研究振興会主任研究員
	千田 昇	大分大学名誉教授
	中田 高	広島大学名誉教授
	渡辺 満久	東洋大学教授

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順。

5) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
電話：029（864）1111（代表）

6) 引用する場合の記載例

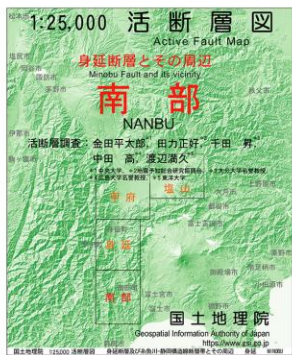
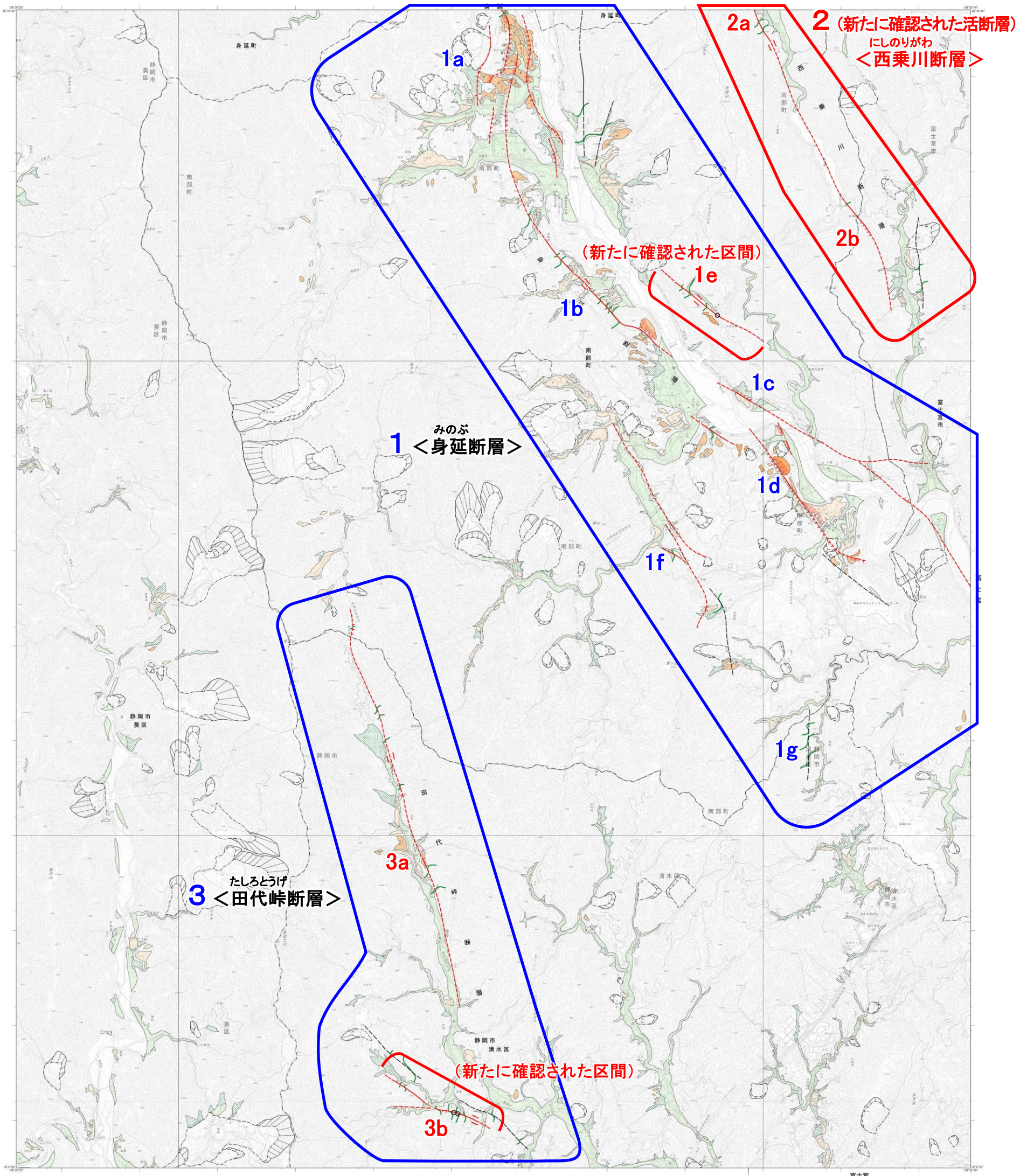
a. 図を引用する場合

金田平太郎・田力正好・千田 昇・中田 高・渡辺満久（2025）：1:25,000 活断層図「南部」.
国土地理院.

b. 解説書を引用する場合

金田平太郎（2025）：1:25,000 活断層図 身延断層とその周辺「南部」解説書. 国土地理院,
14p.

【付図（断層索引図）】

[illegible][illegible][illegible]